

報告事項エ

鳥取県美術館フォーラム2016（米子会場・倉吉会場）の概要について

鳥取県美術館フォーラム2016（米子会場・倉吉会場）の概要について、別紙のとおり報告します。

平成28年6月23日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

美術館整備に係る県民フォーラムの開催結果について

平成 28 年 6 月 23 日
博 物 館

- 県下 3 カ所で予定している美術館整備に係る県民フォーラムが開催され、西部（18 日）で約 100 名、中部（19 日）で約 320 名と多くの県民が参加。
- 参加者との意見交換では、「気軽に親しめる美術館であってほしい」「子ども達が収蔵作品を見て、触れて、美術の素晴らしさを理解できる美術館とすべき」など美術館の在り方に関するやりとりがある一方、立地場所に関する意見などもあった。
- 7 月 10 日に東部地区（県民ふれあい会館）で県民フォーラムを開催するが、これに限らず、出前説明会なども積極的に開催し、より多くの皆様に説明し理解を深めていただいて、美術館整備についての県民合意形成に努めたい。

《参加者からの主な意見》

- ・スペインのプラド美術館に行ったとき、美術館の中で青年がキャンバスをかけて絵を描いていて驚いた。日本の美術館ではペンも持ち込み禁止だ。誰もが気軽に親しめる美術館であってほしい。
- ・瀬戸内芸術祭は、島と島をつなぐスケールの大きな芸術祭だ。鳥取県も東部だ中部だと引っ張り合って、いがみあうのではなくて、東中西部を結ぶ大きなスケールで美術館を考えていただきたい。
- ・鳥取県には中部の前田寛治と西部の辻晉堂というアーティストがいる。美術館ができれば、子どもを招いて勉強してくださいではなく、まずは先生にビデオや出前という形でもっと地元作家作品の素晴らしさを浸透させてほしい。その結果、将来的には小さくてもいいので、西部には辻晉堂記念館、中部なら前田寛治記念館ができるなど、住民の機運が盛り上がるようにすることを県立美術館に期待する。
- ・H13 に文化芸術振興基本法が施行されて、文化芸術の重要性が認識されたはずだが、鳥取県は美術館が作られなかった。この結果、子ども達が本物を見て感性を磨かないといけな
い時期に、そういう機会がなくなった。野球選手に野球場がない、サッカー選手にサッカー場が無いように、グラウンド、バックボーンがないと活動はできない。全国に向けて文化後進県を宣伝しているようなもの。
- ・立地場所の決定に当たっては、最終的な判断を行う県議会議員も現地を確認すべき。
- ・身近な美術館とするため、新しい美術館では地元で地道に活動している者の活動も取り入れてほしい。そうすれば裾野が広がっていく。（愛好家グループ、中学・高校の部活動、絵画教室、保育園児等に作品発表の場を）
- ・新しい美術館では、ボランティアによる作品解説で、より多くの県民に美術の良さを伝えてほしい。
- ・基調講演の「美術館だけではなく、町全体が美術館」とはすごい発想だ。倉吉は地域にアート作品が置いてある。そうした取組も踏まえてこれからの美術館のあり方を検討してほしい。
- ・鳥取県に美術館を整備する時は、建てて終わりではなく、「こういう美術館に育てよう」と、美術館づくりに参画することが地域づくりに繋がる。コンセプトが決まる前にこうしたフォーラムがあったら、立地場所の綱引きの話が盛り上がることなく、良い話が進んだと思う。

(参考)

鳥取県 美術館フォーラム 2016

みんなでかんがえる 美術館の可能性

開催要項

1. 趣 旨

鳥取県では現在、県立博物館の老朽化や収蔵スペース狭隘化への対応、そしてアートによる地域再生拠点の必要性などから、同館の美術部門を独立させ、新たに美術館を建設することを検討している。そこで、これまでの検討状況を説明するとともに、さまざまな分野の専門家を招いてフォーラムを開催し、美術館とは何か、鳥取県にはどのような美術館が必要なのかについて、県民と一緒に考えて考える機会を県内3か所で持つこととする。

2. 開催概要

(1) 第1回 テーマ：美術館に期待するもの

- ・期 日 等：平成28年6月18日（土）13：00～15：00
- ・会 場 等：米子コンベンションセンター BIG SHIP 小ホール 定員300名
- ・検討状況説明：尾崎信一郎（鳥取県立博物館副館長）
- ・基調講演：「鳥取の美術館に期待するもの」
熊田 司氏（和歌山県立近代美術館館長）
- ・パネルディスカッション
コーディネイター：林田英樹氏（鳥取県美術館整備基本構想検討委員会委員長）
パネラー：熊田司氏、鳥取県美術館整備基本構想検討委員会委員（半田委員、衣笠委員、谷本委員）

(2) 第2回 テーマ：美術館と地域づくり

- ・期 日 等：平成28年6月19日（日）13：00～15：00
- ・会 場 等：鳥取県立倉吉体育文化会館 大研修室 定員360名
- ・検討状況説明：大場尚志（鳥取県立博物館館長）
- ・基調講演：「美術館と地域づくり ～十和田市でのプロジェクトを中心に」
藤 浩志氏（美術作家・秋田公立美術大学教授／前十和田市現代美術館館長）
- ・パネルディスカッション
コーディネイター：林田英樹氏（鳥取県美術館整備基本構想検討委員会委員長）
パネラー：藤浩志氏、山本教育長、鳥取県美術館整備基本構想検討委員会委員（半田委員、来間委員）

(3) 第3回 テーマ：美術館と人づくり

- ・期 日 等：平成28年7月10日（日）13：00～15：00
- ・会 場 等：鳥取県立生涯学習センター 県民ふれあい会館 ホール 定員400名
- ・検討状況説明：大場尚志（鳥取県立博物館館長）
- ・基調講演：「美術館をめぐる人々の出会いと学びー「教育普及活動」のこれまでとこれから」
塚田美紀氏（世田谷美術館主任学芸員）
- ・パネルディスカッション
コーディネイター：中島諒人氏（演出家・鳥の劇場芸術監督／鳥取県教育委員長）
パネラー：塚田美紀氏、鳥取県美術館整備基本構想検討委員会委員（水沢委員、森口委員、田村委員）

ふさわしい姿考える

県立美術館 フォーラム 専門家ら講演や討議

米子

鳥取県が建設を目指す県立美術館に関するフォーラム（県立博物館主催、新日本海新聞社特別後援）が18日、県内3会場のトップを切って米子コンベンションセンターで開かれた。約100人が参加し、専門家の講演やパネル討論などで、鳥取県にふさわしい美術館の在り方を考えた。

県立博物館の老朽化や収蔵庫の過密化などを受け、県教育委員会は美術分野を独立させて美術館を整備する方針。専門家らでつくる県美術館整備基本構想検討委員会で、整備内容を検討している。フォーラムは、検討状況を広く県民に知ってもらうと開いた。

和歌山県立近代美術館の熊田司館長が「鳥取の美術館に期待するもの」と題して講演。「前知事時代の県立美術館構想凍結後、ソフトを充実した施策が実現を結ぼうとしている。新しい美術館を拠点に活動をさらに充実させてほしい」と述べた。

パネル討論は、検討委員長の林田英樹元文化庁長官が進行。全国で最後発となる県立美術館整備について、委員の衣笠幸雄TBSサードビズ社長は「前例を参考にできる。なるべくコストをかけず、中身が充実した美術館を造るチャンス」と指摘し、同じく委員の半田昌之日本博物館協会専務理事は「県民が美術館を支える鳥取モデルを示してほしい。箱で



はなく広場を造る発想が必要」と訴えた。フォーラムは19日に倉吉体育文化会館、7

月10日に県民ふれあい会館（鳥取市）で開く。（堀田裕史）

鳥取県に必要な美術館について意見を交わすパネリスト=18日、米子コンベンションセンター

美術館 地域づくりに活用 フォーラムで検討状況説明も

倉吉



美術館と地域づくりについてパネリストの意見を聞く参加者ら＝19日、倉吉体育文化会館

鳥取県が建設を目指す県立美術館に関するフォーラム（県立博物館主催、新日本海新聞社特別後援）が19日、倉吉体育文化会館で開

た。フォーラムはこれまで

での検討状況を説明し、鳥取県にどのような美術館が必要か、県内3市で県民と考える機会を持つと企画。前日の米子市に続き開かれた会には、約320人が参加した。

美術作家で前十和田市現代美術館長の藤浩志氏が講演で「美術館は学ぶ、つくる、福祉、研究施設など多層な構造を持つべき」と説明。企業とのコラボ商品づくりや、町なかで関連イベントを開いて来館者が町を回る仕掛けを作るなど事例を紹介した。

パネル討論では、県美術館整備基本構想検討委員会委員の来間直樹氏が「美術館という敷居を下げ、県民に開かれたリビングルーム的な場所にする必要がある」と指摘。同じく委員の半田昌之氏は「県立博物館収蔵の2万点の作品と、その素晴らしさを語る学芸員という蓄積された手」に、地域の文化も取り入れて情報発信していけば、全世界に誇れる美術館に育つ」と強調した。（石原美樹）